

はじめに

少子化・高齢化の進行、地域社会のつながりの希薄化など、社会環境が急速に変化する中、次代を担う子どもたちが他者とふれあいながら生きる力を身に付けていくためには、学校・家庭・地域が連携・協働した教育を推進していくことが重要です。

このため、本県においては、昨年3月に策定した県政運営の指針となる「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」の重点施策の一つとして「社会総がかりによる『地域教育力日本一』の取組の推進」を掲げるとともに、県教育委員会では、チャレンジプランの策定に合わせて改定した山口県教育振興基本計画に「10の緊急・重点プロジェクト」の一つとして「地域ぐるみの教育推進プロジェクト」を掲げ、コミュニティ・スクールを核とした「やまぐち型地域連携教育」を推進しているところです。

こうした中、国においては、昨年4月に文部科学大臣から中央教育審議会に対し、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方について」の諮問が行われ、昨年12月21日に答申が示されました。

その答申には、全ての公立学校において、地域の方や保護者等が学校運営に参画する仕組みとして、コミュニティ・スクールをめざすべきであるということや、従来の学校支援地域本部、放課後子ども教室等の活動をベースに、「支援」から「連携・協働」、個別の活動から「総合化・ネットワーク化」をめざす新たな体制としての「地域学校協働本部」へ発展させていくことが必要であるということが明記されており、「やまぐち型地域連携教育」を推進する本県の考え方と方向性を同じくするものとなっています。

県教育委員会としましては、学校・家庭・地域が連携・協働することにより、社会総がかりで本県らしい特色ある教育を推進してまいりたいと考えており、今後、各地域において、より多くの保護者や地域の方が参画して、子どもの豊かな成長へとつながる様々な教育活動が展開されることを期待しています。

この事例集は、県内の小中学校におけるコミュニティ・スクールの取組や、小中学校等が連携した取組を中心にまとめたものです。今後のコミュニティ・スクールの取組の一層の充実に御活用いただければ幸いです。

平成28年3月

山口県教育委員会

教育長 浅原 司

目 次

- 1 コミュニティ・スクールの推進に向けて P 2 ~ 6
 - 山口県コミュニティ・スクール推進協議会委員から
 - 山口CS^{コミスク}コンダクターから

- 2 「やまぐち型地域連携教育」について P 8 ~ 15
 - 「やまぐち型地域連携教育」の推進
 - 「やまぐちコミュニティ・スクール」の推進
 - 「コミュニティ・スクール」を核とした「やまぐち型地域連携教育」の推進

- 3 コミュニティ・スクールや学校・家庭・地域が連携・協働した取組事例 P 18 ~ 59
 - 学校運営に係る取組
 - 学校支援に係る取組
 - 地域貢献に係る取組
 - 学校（園）が連携した取組や地域ぐるみの取組

- 4 成果と課題の検証 P 62 ~ 63

1 コミュニティ・スクールの推進に向けて

- 山口県コミュニティ・スクール推進協議会委員から P2
- 山口^{コミスク}CSコンダクターから P3~6



山口県コミュニティ・スクール推進協議会委員から

「ふるさと山口」のよさをコミュニティ・スクールに生かして

山口大学教育学部 教授 霜川 正幸



大学主催の研修会に県外からいらっしゃるお客様（講師や参加者等）の多くが「山口県には豊かで温かく、先進的、愛郷的な教育風土がある」とおっしゃいます。私たちの「ふるさと山口」は、まさに、学校と地域が一体となって「地域総がかりで子どもを育てる」全国トップレベルの教育県、「教育や人づくりを大切に思い、学校と地域のつながりを大切に作る県」と言われています。その核的存在として「コミュニティ・スクール」があり、多くの子どもたち、先生方、保護者や地域住民の方々が、笑顔と元気あふれる創造的な活動を展開しているのです。

「ふるさと山口」に誇りと愛着を持ち、「志」を立てて支えていける人材を育成するためにも、山口県のコミュニティ・スクールに大いに期待しています。

教育再興に向けて

教育再生実行会議提言フォローアップ会合 有識者委員 貝ノ瀬 滋



社会総がかりによる「地域教育力日本一」に取り組む山口県教育委員会は、我が国の教育再興の希望の星である。

コミュニティ・スクールが核となり、「地域協育ネット」を生かした取組は、各中学校区で地域のネットワークの仕組みを整え、学校・家庭・地域が連携・協働するという社会総がかりでの学校づくり・地域づくりを見事に推進している。

それは、国の今後の政策推進へも大きな影響を与え、「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」の一体的推進に道筋をつけるロールモデルとして意義付けられるものである。

学校教育と社会教育の真の連携により、生涯学習社会の到来を期待させる偉業であろう。

地域カリキュラムという宝物

兵庫教育大学 教授 小西 哲也



平成27年12月21日に中央教育審議会の答申が出された。一つひとつを読み込んでみると、この数年間に山口県が手がけてきた多くの取組が言語化されているのではと思えるほどの内容であることに気付く。そして、おそらく次の学習指導要領のメッセージの柱は「地域に開かれた教育課程」であり、「授業は地域の文化だ。」として取り組んだ県内多くの学校に注目が集まることも必至だろう。コミュニティ・スクールの推進に学校の生業である授業を抱き合わせてきたことの意味は計り知れなく大きい。子どもたちが今学校でどんな力を付けようとしているか、その力をどのように付けていくのかが地域に浸透しなければコミュニティ・スクールの成長はないと考えている。子どもの学びと大人の学びに内容の違いこそあれ、地域で生きていくことの大切さを心や体に刻み込む視点から見れば同じ営みである。どちらも充実しなければ社会総がかりの仕組みなどできるはずはない。

コミュニティ・スクールに形（正解）などない。子ども、保護者、地域、そして教職員の個性が重なり合って皆が育てたい子どもの姿を追究しながら、地域が学びでつながる。気が付けば町づくりを後押しするコミュニティ・スクールの存在に、学校がなぜここにあるのかを再認識し、このことこそが学校の使命であることに気付く。最初から町づくりを目標にコミュニティ・スクールを始める学校などありはしない。地域の方々と手を携える取組から生まれた副産物は、将来にわたって大切にすべき宝物だ。

コミュニティ・スクールは、それに取り組んだからこそ分かったことやできることが多い。子どもたちの学びの場面だけでなく、育ちに関する場面でもその効果を肌で感じることができるようである。「形の問題ではない。中身だ！」という声もある。中身を研究していても副産物に出会うことなどない。山口県の取組をより充実するためにコミュニティ・スクールの取組を地域カリキュラムという宝物に育て、将来にわたって地域総がかりで守ってほしいと切に願う。

コミュニティ・スクールとしての取組の広がりを期待して

岩国市教育委員会 山口CSコンダクター 藤井 明男

山口CSコンダクターとして、五つのモデル中学校区を中心に多くの小中学校を訪問し、学校運営協議会・地域協育ネット協議会はもちろんのこと、ユニット型校内研修や地域との交流会等にも参加させていただきました。

また、全国の研修大会等にも参加して、先進的な取組にも直接触れることもできました。各地域の特色を生かしたコミュニティ・スクールとしての取組とともに、全国規模の実践内容の様子等も「岩国CSだより」で紹介できることが、私の一番の喜びであったと感じています。

これからも、岩国の子どもたちや地域のために、学校・家庭・地域・関係機関と一緒に頑張って取り組んでいきたいと考えています。



良さを感得できるコミスク活動の推進を

柳井市教育委員会 山口CSコンダクター 中原 直巳

子どもに愛情をもった人たちが、いろいろな形で出入りしていることが、良い学校の一つの条件であると聞きます。

コミュニティ・スクールの充実をめざした事業の展開は、新たな人の流れをつくり、子どもたちは、親や教師以外の多くの大人と交流することができ、喜んで支援を受けたり、地域行事に参加したりできるようになってきたことを実感します。また、私たちの方が成長させてもらっていると語るボランティアの方の笑顔に、改めてコミュニティ・スクールの意義を覚えてもらったようにも思います。

しかし、地域と共に活動する事例を増やすことばかりに奮起して、めざす本質を見失っては いけません。評価・改善を続け、皆が良さを感得できるコミュニティ・スクールの実践を重ねていきたいものです。



よりよいスタートを願って

下松市教育委員会 山口CSコンダクター 白木 克己

下松市では、これまで築き上げてきた学校と地域が連携して子どもを育てる取組を土台にして、「地域に開かれた信頼される学校づくり～地域とともにある学校～」を更に加速化し、下松教育の基本目標「心豊かに生きる力を育む」の実現をめざしています。そのための有効な手段として、市内全小中学校でコミュニティ・スクールの取組を進めようとしています。

様々な関係会議や研修会でお話をさせていただいたり、週一回推進だよりを発行したり等、微力ですが、よりよいスタートができるようお手伝いさせていただきました。それぞれの地域、それぞれの学校にふさわしいコミュニティ・スクールが創造されることを強く願っています。



コミュニティ・スクールの効果と導入に向けてのポイント

光市教育委員会 山口CSコンダクター 木本 育夫



- コミュニティ・スクールの取組によって得られる効果として、次の三点が考えられる。
 - ・地域の望む子ども像を共有することで、子どもたちの「生きる力」を育むことができる。
 - ・教職員、保護者、地域住民等がともに成長していくことで、地域の教育力の向上につながる。
 - ・学校を核として地域のネットワークが形成され、地域の活性化につながる。
- コミュニティ・スクールの効果的な導入を進めるにあたってのポイント
 - ・学校運営協議会委員等の選出は、校長が学校の応援団をつくるつもりで選出するとよい。
 - ・委員等が役割を果たすためには、学校の仕組みやルール、教育の制度を学ぶ機会が必要。
 - ・コミュニティ・スクールはあくまで道具である。大事なことは、地域、子どもたちの実態を踏まえた校長のビジョンである。

周南市の小中連携を核としたコミュニティ・スクール

周南市教育委員会 山口CSコンダクター 布施 安浩



平成27年度当初より、4モデル中学校区全16校が、学校と地域諸団体や学校支援ボランティア等との横のつながりを深め、各学校運営協議会を含めた小中連携の縦のつながりと調和する「地域とともにある学校」づくりに意欲的に取り組む姿を見てきました。年間を通して、学校と地域の連携が大きく進展してきたと実感しています。

平成28年度は、地域の教育的土壌を滋養として伸びる若木（小中連携）のイメージを周南市版『地域と共にある学校』構想とし、CSコンダクターとして地域コーディネーターや学校の地域連携担当者と連携し、学校と地域が協働し子どもたちの「生きる力」を育て、その連携の関わりが自らの喜びとなるようなCSの一層の推進に努めたいと考えています。

地域との関わりで子どもがたくましく成長

山口市教育委員会 山口CSコンダクター 長尾 彰



「地域とともにある学校づくり」で大切なことは、多様な人々との関わり合いの中で、協働して課題を克服することにより、よりよい社会を創り出すことにあります。

ある学校では、子どもが地域の行事に参加するだけでなく、地域の方と一緒に準備や運営に携わり、地域の一員として生き生きと活躍する姿が見られました。また、地域協育ネットコーディネーターさんの尽力で、保護者や地域の方と子どもが本の「読み合い活動」を行う取組もありました。

地域の方との交流により地域への愛着や大人への信頼を深めた子どもが増えてきたように思います。

コミュニティ・スクールや地域協育ネットの充実は、子どもの成長のみならず、大人にも生きる勇気を与えてくれます。

地域まるごと学校「防府モデル」

防府市教育委員会 山口CSコンダクター 古江 稔



防府市は、平成24年度に、全ての小・中学校をコミュニティ・スクールに指定した。平成25年度末には地域協育ネットの枠組みもつくり、推進してきたが、その取組に学校間・地域間で“温度差”が生まれた。

本年度をPDCAのチェックの時機と捉え、学校運営協議会の水準向上策と公民館による連携強化策を打ち出した。各地域の豊かな教育資源を生かす意味から、「地域まるごと学校『防府モデル』」としてまとめ、3月初旬に各学校・公民館に配付予定である。

様々な特色のある校区を本市の「よさ」として捉え、「学校美術館」等の取組のような、学校と公民館を核とした学校づくり、地域づくりを進め「教育のまち日本一」につなげていきたい。

うれしい声、楽しい声、感謝の声が響く学校に

宇部市教育委員会 山口CSコンダクター 今鶴 勇二



コミュニティ・スクールの活動を通じて、地域から様々な声を聞きます。低学年の子どもとサツマイモを収穫しながら「子どもが喜んでくれるのが何よりです。」と目を細められるお年寄り。絵手紙づくりの講師として招かれ、「自分の経験が生かせてうれしい。感謝します。」と話される地域の方。学校支援の輪は確実に広がっています。

松林の保全に取り組む中学生の活動を見て、「本当にありがたい。いい取組です。」と感謝される近所の方。地域の方を招き、子どもたちが計画した感謝の会。紙相撲に夢中になり「わあ、負けちゃった。もう1回！」と笑顔満面の参加者。地域貢献や感謝の姿も多様です。こうした声を更に増やしていきたいと考えています。

コミュニティ・スクールの取組について

山陽小野田市教育委員会 山口CSコンダクター 松浦 美彦



本年度本市のコミュニティ・スクールは学校数の半分以上が立ち上がり、来年度に全ての学校が立ち上がる。他市に比べ出遅れたが、コミュニティ・スクールを立ち上げた学校は体制づくりや小中連携強化に取り組んでいただいた。

しかしながら、まだまだコミュニティ・スクールに対する認識が薄く、まずは教職員の意識を変えるために、モデル校区だけでなく全ての学校を何度も訪問し、コミュニティ・スクールへの理解や必要性を求めることに努めた。

また、市教委の計画訪問に同行することにより、各学校の実情がしっかり把握できた。これからは学校運営協議会だけでなく、地域への理解や協力が必要になってくる。私自身がコミュニティ・スクールの経験がなく当初は戸惑ったが、研修を積み重ねることにより徐々に指導助言ができるようになってきた。

まだまだ課題は山積だが、教職員や地域の人々がコミュニティ・スクールに取り組んで本当に良かったと思えるように、微力ながら努めていきたいと思う。

「共に生きる」コミュニティ・スクールをめざして

美祿市教育委員会 山口CSコンダクター 金子 明美



「学校は役割が多くて先生方は大変だ。保護者、地域はそれぞれの役割を担っていくことが大切。地域でできることは何でもしますよ。」ある学校運営協議会でいただいた地域の方の熱いエール。学校と地域、小中9年間のつながりが深まるにつれて、子どもも大人も変わりつつあります。学校の課題解決に向け白熱する協議や熟議、笑顔で活動されるボランティア、地域について学び自信をもって発信し、地域の方と共に汗を流す体験を重ねる子どもたち。今後は、更なる情報発信によりコミスクへの理解・協力の輪を広げると共に、学校を核とした地域のネットワークづくりに努め、みんながつながり、「共に生きる」コミスクをめざしたいと考えています。

CSコンダクターの仕事は楽しいか？

下関市教育委員会 山口CSコンダクター 白岡 勝典



下関市は既に全小中学校がコミュニティ・スクールに指定されており、それぞれの学校が、地域の特色を生かした独自の取組を推進していました。そんな状況下、コンダクターとしてモデル校とどう関わっていけばよいのか分からず、手探り状態でつらい日々を過ごしたことが思い出されます。まず各学校のコミスクの取組を「知る」ことから始めようと思い、学校運営協議会を中心に学校訪問を続けてきました。実際に学校を訪問することで、学校や子どもたちの笑顔のために、生き生きと活動している多くの関係者と出会うことができ、コミュニティ・スクールがますます「好き」になり、この仕事が「楽しく」なってきました。

学校運営協議会の更なる充実をめざして

萩市教育委員会 山口CSコンダクター 池田 廣司



今年度は、それぞれタイプが異なる四つの中学校区12校をモデル校として、「小中独立・連携型」「小中併設・一貫型」等、地域の実情に沿ったコミュニティ・スクール推進体制づくりを進めてきました。コンダクターとしては、モデル校全ての学校運営協議会に参加し、コミュニティ・スクールをツールとして活用するためのマネジメントの仕方等について、学校と一緒に考えてきました。

次年度は、それぞれの学校運営協議会を更に充実させることや、小中合同の学校運営協議会による「小中連携カリキュラム」を作成し、実践するなど、子どもたちの学びや育ちを地域ぐるみで支援していく体制を構築していきたいと考えています。

みんなちがってみんないいコミュニティ・スクールをめざして

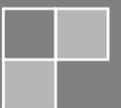
長門市教育委員会 山口CSコンダクター 藤本 憲司



本市のコミュニティ・スクールの特徴は、①各中学校区を「みすゞ学園」と称し、小中一貫教育の推進、②公民館がコーディネーター役を担う地域協育ネットと両輪での学校支援、③学校運営協議会等の協議の場では、積極的に「熟議」を取り入れて学校運営への参画意識の高揚、④みすゞ学園ごとに小中合同の学校運営協議会をもち、子どもたちの学びや育ちを見守るための方策協議などがあげられる。各校の特色を生かしながら、「継続は力なり」をモットーに、本市教育基本方針「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育による学校づくり」を進めていきたい。

2 「やまぐち型地域連携教育」について

- 「やまぐち型地域連携教育」の推進 P 8 ~ 9
- 「やまぐちコミュニティ・スクール」の推進 P10 ~ 11
- コミュニティ・スクールを核とした「やまぐち型地域連携教育」の推進 P12 ~ 15



「やまぐち型地域連携教育」について

1 「やまぐち型地域連携教育」の推進

(1) 「やまぐち型地域連携教育」推進の背景

① 社会の動向と子どもたちの教育環境を取り巻く状況等

近年、少子化・高齢化の進行、グローバル化・高度情報化の進展など、急速な社会の変化に伴い、地域社会のつながりや支え合いの希薄化等による地域の教育力の低下や家庭教育の充実の必要性等が指摘されています。

また、社会環境が大きく変化する中で、多様な価値観を持った人々との交流や体験の減少等を背景として、子どもたちの規範意識や社会性、自尊感情等に対する課題、生活習慣の乱れによる学習意欲や体力・気力の低下等、育ちに関する様々な課題に加え、学校が抱える課題は複雑化・困難化している状況にあります。

② 社会総がかりの教育の必要性

子どもたちの豊かで健やかな成長を育んでいくとともに、学校や子どもたちが抱えている課題を解決していくためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、社会総がかりの教育を推進していくことが重要です。

平成27年12月21日に出された中央教育審議会の「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」(答申)においても「学校と地域は、お互いの役割を認識しつつ、共有した目標に向かって、対等な立場の下で共に活動する協働関係を築くことが重要であり、パートナーとして相互に連携・協働していくことを通じて、社会総がかりでの教育の実現を図っていくことが必要である。」と示されています。

③ 本県のこれまでの取組

山口県教育委員会では、平成17年からコミュニティ・スクールの推進に、また、平成23年から「地域協育ネット」の推進に取り組み、学校・家庭・地域が連携・協働し、社会総がかりで子どもたちの学びや育ちを支援する体制づくりを進めてきました。

こうした中、本県では、平成27年3月に「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」を策定し、その中で「社会総がかりによる『地域教育力日本一』の取組の推進」を掲げました。

そのチャレンジプランを踏まえ、県教育委員会では、山口県教育振興基本計画を一部改定し、「地域ぐるみの教育推進プロジェクト」を掲げ、平成27年度から「やまぐち型地域連携教育」を推進しています。

「地域協育ネット」

幼児期から中学校卒業程度までの子どもたちの15年間の育ちや学びを地域ぐるみで見守り、支援するためのおおむね中学校区を一まとまりとした仕組み

(2) 「やまぐち型地域連携教育」について

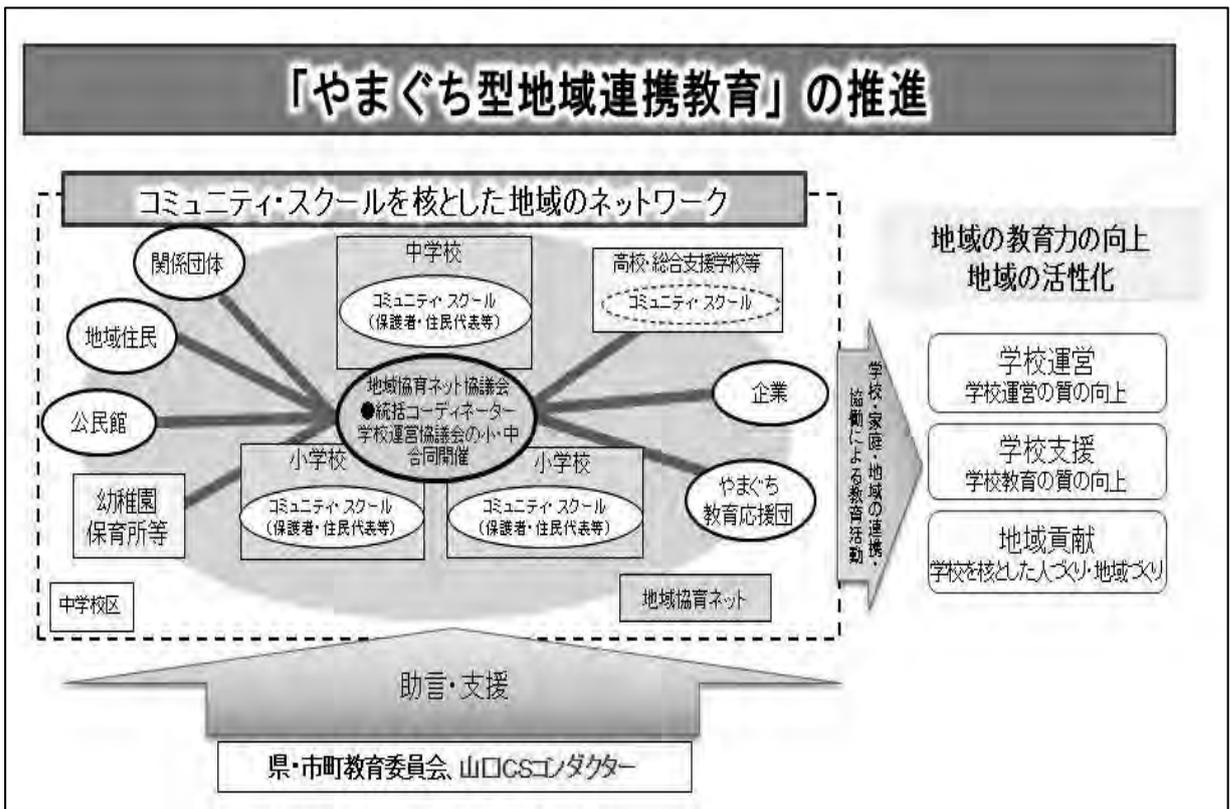
「やまぐち型地域連携教育」とは、コミュニティ・スクールが核となり、本県独自の取組である「地域協育ネット」の仕組みを生かして、各中学校区で地域のネットワークを形成し、学校・家庭・地域が連携・協働することにより、社会総がかりで子どもたちの学びや育ちを見守り支援する取組です。

この取組により、各小中学校のコミュニティ・スクールの充実はもとより、小中連携の充実、さらには、保育所や幼稚園、高校等との学校間連携を進めるとともに、地域の様々な社会教育団体等がつながり、地域ぐるみの教育支援体制の構築をめざしています。

また、コミュニティ・スクールを核として、学校と地域のつながりが深まることで、学校支援が充実し、質の高い学校運営が行われます。

さらに、学校という場を大人の学びの場にしていくことで、学校にたくさんの地域の人が集い、つながり、地域の大人同士の絆が深まることにより、地域の教育力向上、地域の活性化につながるものと考えています。

推進に当たっては、義務教育課と社会教育・文化財課が緊密に連携するとともに、市町教育委員会とも連携しながら、推進体制の強化を図っています。



- * 山口CSコンダクター：各コミュニティ・スクールの取組の充実や水準の向上、小中連携の取組を推進するため、各学校の訪問指導・連携支援を行う。
- * 統括コーディネーター：中学校区に配置され、学校間の連携や地域の支援者との連絡調整、活動の総合調整など、を行う。

2 「やまぐちコミュニティ・スクール」の推進

山口県の「めざす学校像」

(1) 「やまぐちコミュニティ・スクール」について

学校教育が抱える課題が一層複雑化・多様化する中、それらを学校だけで解決するのは困難な状況になってきており、山口県では、学校・家庭・地域が連携・協働し社会総がかりでの教育を実現するために、「やまぐち型地域連携教育」の核となるコミュニティ・スクールを推進し、子どもたちの豊かな成長につなげていきたいと考えています。

- ☆地域に開かれた学校
- ☆地域づくりに貢献できる学校
- ☆地域の人々のよりどころとなる学校

「やまぐちコミュニティ・スクール」3つの機能

「学校運営」・「学校支援」・「地域貢献」の3つの機能をもつ「やまぐちコミュニティ・スクール」を推進することにより、全ての学校の教育水準と学校運営の質の向上を図り、山口県の「めざす学校像」の具現化をめざしています。

やまぐちCSの3つの機能



学校運営

学校運営の質の向上

学校運営協議会の主な役割（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5）

- ・学校運営の基本方針を承認します。
- ・学校運営に関する意見を述べることができます。
- ・教職員の任用に関する意見を述べることができます。

- 学校を開き、課題解決に地域と一緒に取り組みます。
- 学校運営協議会において学校評価を効果的に活用し、学校運営の改善を図ります。
- 学校運営協議会委員の参画による授業参観や評価により、教職員の人材育成を行います。

学校支援

学校教育の質の向上

- 学校・家庭・地域で学校課題や目標等を共有し、教育支援活動を充実させます。
- 地域のネットワークを生かし、より多くの地域住民や保護者の参画による教育支援活動を展開し、子どもの豊かな体験や学びにつなげていきます。
- 学校の様々な活動を地域ボランティアが支援することで、教員が子どもと向き合う時間の確保につなげていきます。

【取組例】ゲストティーチャー、学習補助・安心安全の見守り活動、環境整備 など

地域貢献

学校を核とした、人づくり・地域づくり

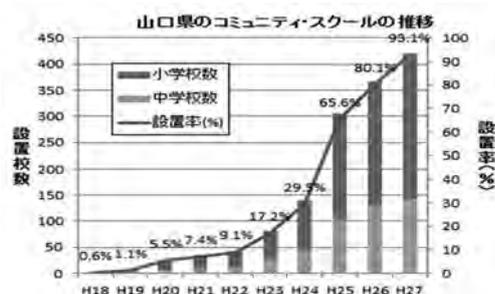
- 子どもが地域行事やボランティア活動へ参加することにより、地域の大人と触れ合う機会や多様な経験をする機会を増やします。
- 学校という場を地域住民の経験や学習の成果を生かす場、大人の学びの場にしていきます。
- 学校という場が、地域住民のよりどころとなり、大人同士の絆きずなを深めていきます。

【取組例】児童生徒によるボランティア活動や地域行事への参加、地域の方を対象とした教養講座の開催、地域交流室（スペース）の設置 など

(2) コミュニティ・スクールの設置状況

平成27年度の山口県の市町立小中学校のコミュニティ・スクールの設置率は93.1% (H27.10.1現在)となっています。

※ 全国公立小中学校の設置率 7.6% (H27.4.1時点)



その背景には、山口県には古くから子どもたちの教育に熱心な風土があり、この県民性が今も受け継がれ、地域の方々が学校教育を支援しようという気持ちをもっておられることが要因の一つになっていると考えています。

また、コミュニティ・スクールは、地域とともにある学校づくりの有効な仕組みであり、コミュニティ・スクールを推進したいという県教育委員会の考えを市町教育委員会が積極的に受け止め、連携した推進が行われたことや、教職員等を対象とした研修会を実施することにより、学校のコミュニティ・スクールに対する理解が深まったことも、大きな要因と考えられます。

(3) 平成27年度の主な取組

- 「山口県コミュニティ・スクール推進協議会」の開催による県の取組方針や各市町の課題等の協議 (対象: 19市町代表、有識者、小中校長会長等 開催: 2回)
- 「山口県コミュニティ・スクール推進フォーラム」(12月19日)、「やまぐち地域連携教育研修会」(7地域 8月~12月)の開催による、コミュニティ・スクールや「地域協育ネット」についての県民への周知及び気運の醸成 (対象: 学校運営協議会委員、全国CS関係者、一般県民等)
- 「山口CSコンダクター」の配置(13市)による各学校運営協議会や学校運営協議会の小・中学校合同開催の指導・支援
- 「山口県『地域教育力日本一』研修会」の開催による推進体制や取組の支援・強化 (対象: 学校運営協議会委員、「地域協育ネット」関係者等 開催: 6月13日)
- やまぐちコミュニティ・スクール事例集の作成・配付(3月末)
- 地域住民の理解、参画の推進に向けた住民意識調査の実施 (県政世論調査・モデル中学校区等)



「山口県『地域教育力日本一』研修会」
参加者400名による熟議

3 コミュニティ・スクールを核とした「やまぐち型地域連携教育」の推進

(1) 山口県コミュニティ・スクール推進協議会

○目的

県内のどの地域においても、地域ぐるみで子どもの育ちや学びを支援する質の高い教育支援体制を整備するために、コミュニティ・スクールに関する県教育委員会の施策の充実や各学校等の取組の改善に向けた協議を行うとともに、各市町での自立した取組を支援し、内容の充実を一層促進する。

○ 内容

・委員構成

各市町CS推進協議会委員、学識経験者、学校関係者、市町教育長代表、山口CSコンダクター代表 等

・開催日 年2回開催（4月27日、1月26日）

・協議内容

【第1回】県のコミュニティ・スクールの施策について説明し、推進に向けての共通理解を図るとともに、各市町の課題等について改善方策を協議

【第2回】プロジェクト・チーム会議のまとめ、山口CSコンダクターの取組による成果と課題、地域大会・全国大会の成果等を踏まえ、コミュニティ・スクールの取組の評価及び各市町の状況について協議

○ プロジェクト・チーム会議

協議会の下部に、情報収集及び分析等を行うプロジェクト・チームを設置する。プロジェクト・チームは会長から委嘱を受けた委員によって構成され、必要に応じて会長が招集する（「山口県コミュニティ・スクール推進協議会」設置要綱 第7条）。

《協議内容》

開催日	協議内容
6. 12	○ 「コミュニティ・スクールの充実に向けて、どのような取組が必要か」 ・コミュニティ・スクールの充実とは ・コミュニティ・スクールを充実させるために、どのような取組をしていけばよいか
10. 6	○ 「県政世論調査の分析及び課題解決に向けて」 ・県政世論調査結果について ・調査結果から見える課題解決に向けて
11. 24	○ 「コミュニティ・スクール充実のための具体的な手立てについて」 ・啓発の工夫 ・行政としてはたらきかけ ・より多くの人々が来校する工夫 ・今後のコミュニティ・スクールの取組について

(2) 山口CSコンダクターについて

○ 山口CSコンダクターの役割

モデル中学校区を中心に、各学校のコミュニティ・スクール（CS）の取組の充実や水準の向上、合同の学校運営協議会の体制づくりによる小中連携の取組の充実などを推進するために、各学校の訪問指導連携支援等を行う

※ CSに関する理解と経験をもつ退職校長等を配置

○ 山口CSコンダクターの取組

- ・ 学校訪問による管理職への指導・助言及び職員研修会等でのCSの重要性の説明
- ・ 社会教育主事や指導主事、公民館等との連携及び学校と行政とのパイプ役
- ・ 取組の充実を図るため、CSの協議会に積極的に参加し、指導・助言
- ・ CS推進のための研修会を市教委と連携して企画・運営
- ・ CSだよりの作成による教職員・地域住民への啓発
- ・ 小中共通のテーマ設定等、校長を指導・支援し小中連携を推進

○ 山口CSコンダクター会議及び連絡会の開催（各3回：計6回）

- ・ コンダクター同士及び行政担当者との情報及び課題の共有

※ 山口CSコンダクター連絡会は臨時開催

＜協議内容＞

開催日	会議等	会議・連絡会の内容	参加者
4. 27	会議 ①	所管説明：平成27年度の県教委の取組について 協 議：今年度の活動及び現段階での課題について	コンダクター CS担当
7. 29	連絡会 ①	講 演：「地域とともにある学校づくり」に資する学校評価について 山口大学教育学部 教授 前原 隆志 氏 協 議：一学期の取組及び課題、教職員の意識改革の方策について	コンダクター
8. 31	会議 ②	協 議：夏季休業中の取組及び課題、コンダクターと市教委の連携、二学期以降の取組について	コンダクター CS担当 地域協育ネット担当
10. 19	連絡会 ②	説 明：県政世論調査結果について（事務局） 協 議：意識調査結果の活用方策、地域住民のCSに係る参加・参画状況、二学期の取組状況	コンダクター
1. 15	連絡会 ③	事例発表：岩国市、美祢市のCSコンダクターの取組について 山口CSコンダクター（岩国市） 藤井 明男 氏 山口CSコンダクター（美祢市） 金子 明美 氏 協 議：1年間のまとめ、モデル中学校区の各学校の取組状況把握の方策、来年度に向けた取組について	コンダクター
2. 1	会議 ③	事例発表：コンダクターの取組について 山口CSコンダクター（光市） 木本 育夫 氏 協 議：市町教委の学校教育課と社会教育課の連携、今年度のまとめと来年度の取組について	コンダクター CS担当 地域協育ネット担当

(3) 山口県コミュニティ・スクール推進フォーラムについて

○ 目的

学校・家庭・地域が連携・協働して、社会総がかりの教育を推進するため、その意義を理解するとともに、取組内容の成果、課題を共有し、具体的な改善策を明らかにすることにより、コミュニティ・スクール及び地域協育ネットの一体的な推進を図り、全国に「やまぐち型地域連携教育」の取組を発信する。

○ 開催日 平成27年12月19日(土)

○ 会場 防府市公会堂

○ 内容

- ・開会行事
- ・平成27年度「やまぐち型地域連携教育」に係る優良「地域協育ネット」等表彰

◇浅江中学校区地域協育ネット	(光市立浅江中学校区)	※五十音順
◇あったかネット	(岩国市立川下中学校区)	
◇渦上中学校区地域協育ネット	(山口市立渦上中学校区)	
◇厚東中学校区地域協育ネット	(宇部市立厚東中学校区)	
◇夏柑ネット	(萩市立萩東中学校区)	
- ・実践発表 県教委、萩市教委、周南市立周陽中学校
- ・基調講演 慶應義塾大学 教授 金子郁容先生
「日本で『一番いい』学校」～「いい地域」に「いい学校」ができるのか、
「いい学校」が「いい地域」をつくるのか～
- ・パネルディスカッション
「コミュニティ・スクール」から「学校を核とした地域づくり」へ

コーディネーター	内閣官房教育再生実行会議 有識者委員	貝ノ瀬 滋 氏
パネリスト	千葉県習志野市 秋津コミュニティ 顧問	岸 裕司 氏
	横浜市立東山田中学校 コミュニティハウス 館長	竹原 和泉 氏
	山口CSコンダクター	池田 廣司 氏
	周南市立周陽中学校 校長	大塚ゆかり 氏

○ 参加者 約1,200名

※ 教職員、学校運営協議会委員、地域協育ネット関係者、コーディネーター、行政関係者

○ 感想(アンケートより抜粋)

- ・ 本日の発表を聞いて、山口県の真摯な取組に感動した。理想と現実を見据えた実践や、金子先生の講演の内容の「ツール」をふまえた推進に胸打たれた。パネリストの皆様の素晴らしい積極的な活動による実績に敬意を表したい。
- ・ 山口県での県全体での取組を参考に、地元でのコミュニティ・スクール事業を推進していきたい。
- ・ 管理職だけでなく本校の地域担当教員や次世代を担うミドルリーダーを参加させるべきだと後悔した。
- ・ 内容的には素晴らしかったが、教職員の姿や声を聞くことが映像等でも少なかったなので、そのあたりが感じ取れると良かった。



(4) やまぐち連携教育研修会（7地域大会）

○ 目的

学校関係者と地域関係者が一堂に会し、学校・家庭・地域の連携の意義について理解を深めるとともに、学校と地域が連携して子どもを育む実践事例の紹介や協議等を通して、コミュニティ・スクール及び地域協育ネットの一体的な推進を図る。

○ 各研修会のまとめ

地域	実施日	場所	参加人数	内 容
萩	8. 21	萩市民館	370	所管説明：県教育委員会 事例発表：萩市立椿東小学校、長門市立深川小学校、阿武町立阿武小学校 質疑応答：回答者（萩市CSコンダクター、長門市CSコンダクター）等
岩国	10. 29	岩国市民会館	130	所管説明：岩国市CSコンダクター 事例発表：通津中学校学校運営協議会 川下中学校区地域協育ネット協議会 熟 議：参加者全員
周南	11. 5	室積小学校	109	小中合同授業公開：光市立室積小学校・室積中学校 英語 事例発表：光市教育委員会、光市立室積小学校・室積中学校 （「英語教育強化地域拠点事業」説明）
厚狭	11. 9	ときわ湖水ホール	233	所管説明：県教育委員会 事例発表：美祢市CSコンダクター、美祢市教育委員会 熟 議：参加者全員 ま と め：山口CSコンダクター（宇部、山陽小野田市） 指導講話：CSマイスター 周南市立德山小学校 教頭 中村 正則 氏
防府	11. 21	徳地文化ホール	191	講 演：CSマイスター 北海道大学 学務部長 出口 寿久 氏 「地域とともにある学校づくり」～CSと地方創生～ 事例発表：山口市立仁保中学校 ※山口CSコンダクター（山口市）企画・運営
柳井	12. 5	アクティブやない	196	所管説明：柳井市CSコンダクター 事例発表：柳井市立伊陸小学校 講 演：兵庫教育大学 教授 浅野 良一 氏 「ドラッガーに学ぶ地域・学校・家庭の連携マネジメント」
下関	12. 12	海峡メッセ下関	164	所管説明・事例発表 山口CSコンダクター（下関市）、下関市教育委員会 講 演：CSマイスター 愛知県一宮市立今伊勢中学校 事務長 風岡 治 氏 「これからのコミュニティ・スクールに求められること」
参加者合計			1,393	

